



人生100年時代の健康管理

桐生大学 桐生大学短期大学部副学長 山科 章

【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

舌・口唇の運動機能低下は、発音障害と摂食嚥下障害の両方に関与しており、舌・口唇の巧緻性を調べることが非常に有用といえます。

食べ物を口に入れて保持する、あるいは咀嚼(そしゃく)する際に役立つ機能です。「タ」は舌の前部分を上に上げて発音します。唇を閉じて、しっかりとかむまねをして

前回、口腔(こうくう) 回を下回ると舌や口唇の機能の評価法について紹介しました。その断されず。なぜ「パ」「タ」「カ」の4番目に「舌口唇運動機能低下」があることを紹介しました。しよつか。それぞれの音をゆっくりと少し大返し発音する検査です。1秒当たりの発音回数をカウントすると、舌と口唇をどれ「パ」は唇を開けたくらい滑らかに動かせり、閉じたりして発音するかがわかります。6 します。唇の開閉は、

⑱ 舌口唇運動機能低下について詳しく

みてください。舌の前方部分が動いており、咀嚼に大切なことがわかると思います。「カ」は、舌の付け根の部分を上に引き上げて発音します。ツバをゴクッと飲み込んでみてください。舌の後ろの部分が動いているのを感じると思いますが、食べ物の嚥下(えんげ)に大切なのです。つまり、「パ」「タ」「カ」と発音してもらうだけで、食べ物を口に入れてから飲み込むまでの重要な動作ができるかを調べることができるのです。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。



https://jp.sunstar.com/oral-frail/ 毎日パタカラ

保健・福祉

疾病名	3週間前報告数	2週間前報告数	1週間前報告数	今週の報告数
インフルエンザ	0	0	0	0
RSウイルス感染症	2	0	0	20
咽頭結膜熱	5	17	16	17
A群溶連菌咽頭炎	9	14	16	12

群馬県の

しつかり、6月に入り雨入りの気配。口ナウイルフ的にもまたまかないようです。群馬県では、収まってきたまで県内にもまん延防止等重のままなら解です。変異株が国内にも入ったで、いつまたるのか分りかたもたちへの感います。今、

管理栄養士が応

管理栄養士が相談に応じ「なんでも栄養相談」が桐生役所1階、健康長寿課で行われている。相談は予約制で、電での相談もできる。

桐生市が行う、栄養相談で糖尿病、腎臓病、バランスの食事など栄養や食事に関する相談ができる。「健康診断の結果、やせるように言われた」